

## 経口免疫療法（8）

記録的な猛暑の夏から一転、昨年より1か月も早い富士山初冠雪です。地震、台風、大雨などの自然災害も被害が過去最大規模となるところもあり、避難生活が、なお続いているところも多くあります。1基、1000億円以上の地上迎撃システム、年間5兆円以上の防衛費、戦争は防衛から始まると言います。そんな費用を、アメリカの言いなりに使わず、もっと徹底した平和外交を行い、核兵器禁止条約に調印し、唯一の戦争被爆国として、国際平和のリーダーシップをとって、莫大な防衛費を災害復興に回してほしいものです。

秋の訪れが早いのか、10月の初めにスギの雌花が作られはじめ、二回目のスギ花粉症が出るはずですが、今年は、9月20日からでています。その頃、種類の多いイネ科、ヒノキ花粉症も出ています。

5~8月頃と比べて、農薬の被害は減ってきています。しかし、偏西風の南下と共に今後、PM2.5や黄砂の影響に注意しなければならないでしょう。これにはマスクが有効です。

放射性物質については、放射性セシウムを、ヨウ化ナトリウムシンチレーションで、毎週、東北地方をはじめとして、全国の食物を調べていますが、ほぼ2ベクレル以上のものは、今年、通常の販売ルートでは見られなくなっています。同時に、放射性セシウムに過敏反応を示す方もごく少数になりました。それでも、原発がある限り、私たちは測定を続けます。

私たちは約5年間、経口免疫療法に取り組みました。ほぼ毎日食べるものは、どのような物も経口免疫療法が可能ですが、困難なものは、添加物や残留農薬です。入っている量もわからないし、毎日一定量食べ続ける事も不健康です。そういったものは摂らないことが一番ですが、お仕事等で使用せざるを得ない時は、ご相談に応じます。

うまくいけば、たくさん食べることができても、長くは続きません。食品の状態や体調の影響を、必ず受けるからです。特にIgE抗体が高値の場合は少量を続けて、IgE抗体の低下を確認する必要があります。また、ヒトとしての本来の食は何かを問いながら経口免疫療法を行ってほしいものです。肉だって、ビールだってアレルギー反応無く食べられるよう、経口免疫療法はできますが、それによって、どの様な食を目指すのかが大切です。アレルギーという抑制が無くなった時、食べ方は、その人の人間性や人格が、影響してくるように思います。

再発か、と思われた場合は、全く止めてしまう方が多いのですが、これは危険です。経口免疫療法に取り組んだ時の一番最初の量に戻って続けて行くと、短時間で耐性を得た状態に回復するのですが、症状の強い方は、必ず再チェックにお越しください。

鈴木富美